

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1-1 (電話) 011-551-1400		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月12日	評価確定日	平成19年11月12日

## 【情報提供票より】(平成19年5月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 21人, 非常勤 人, 常勤換算	19.52人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての	2~4	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,000~65,000 円	その他の経費(月額)	25,000~30,000 円
敷金	(有)(90,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

### (4) 利用者の概要(平成19年10月12日現在)

利用者人数	24 名	男性 9 名	女性 15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	6 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 80.28 歳	最低 54 歳	最高 88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石山通内科クリニック 南札幌病院 札幌外科記念病院 ドゥケア歯科矯正歯科クリニック
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い道路に面した都心部にあるグループホームである。1階が系列のクリニックで2~4階がグループホーム、隣接建物が介護付老人ホームとなっており、隣接建物の1階のデイサービスだったスペースを多目的に活用している。ホームの方針として、介護度の高い方も積極的に受け入れており医療と連携した介護サービスが提供されている。医師や看護師の意見を取り入れた介護計画を作成し日常においても入居者の身体状況を細かくチェックし適切な対応を行なっている。スタッフは若いひが多く、活気があり入居者も明るく生活している。地域との繋がりも増えており、子供たちやボランティアの訪問が活発である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価であげられた、地域とのつながり、手すりの増設など、改善が実施されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対して全員で話し合っており、今後ガイドブックを参考にさらに理解を深める方針としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を3ヶ月に1度開催し、地域への情報発信、行事などをテーマに意見交換している。会議の議事録も作成している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「ホームだより」を毎月作成・送付し、健康状態や金銭出納報告も毎月行なっている。来訪時での報告、電話での報告をきめ細かく行なっており、受診の際は直接医師や看護師から報告している。ホーム内に「意見箱」を設置しており、重要事項説明書に第三者の苦情処理窓口を明記している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームが町内会に加入し、町内会の会合に参加している。商店街の夏祭りに参加するほか、ホームのお祭りに地域の方に参加してもらっている。保育園や子ども会の子供たちが頻りに遊びに来てくれている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの「家族になろう」という運営理念は、入居者やスタッフだけでなく地域住民も含めて家族になることを目指しており、職員もそのように理解している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はスタッフから見やすい場所に掲示されている。朝礼やミーティング、内部研修会で確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが町内会に加入し、町内会の会合に参加している。商店街の夏祭りに参加するほか、ホームのお祭りに地域の方に参加してもらっている。保育園や子ども会の子供たちが頻繁に遊びに来てくれている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価であげられた、地域とのつながり、手すりの増設など、改善が実施されている。自己評価に対して全員で話し合っており、今後ガイドブックを参考にさらに理解を深める方針としている。		

札幌市 グループホーム ソレイユ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3ヵ月に1度開催し、地域への情報発信、行事などをテーマに意見交換している。会議の議事録も作成している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には分からないことをいつも聞いており連絡を密にしている。区の管理者会議や運営推進会議においても区の担当者や包括支援センターの担当者と情報交換を密にしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホームだより」を毎月作成・送付し、健康状態や金銭出納報告も毎月行なっている。来訪時での報告、電話での報告をきめ細かく行なっており、受診の際は直接医師や看護師から報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話での報告のほか、運営推進会議に家族に参加してもらっている。ホーム内に「意見箱」を設置しており、重要事項説明書に第三者の苦情処理窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接する老人ホームとの間で職員の異動を行なうことがあるが、移動は極力少なくしており、仮に異動しても頻繁に入居者と会うことができるようにしてダメージを少なくしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を過去に40回以上実施している。また段階に応じた育成計画を作成している。外部研修にも参加しているが、入社年数が若いスタッフなど、外部研修の参加の頻度が少ない。	○	各スタッフが年に1～2回程度、外部の研修にも参加し、その知識をほかのスタッフに還元するような取り組みの強化を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホームスタッフ研修会や管理者会議に参加し交流を深めている。当ホームの医療分野の知識をほかのホームに提供している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先から入居となる場合がほとんどであり、ホームの看護師が病院に何度か行き、本人が安心できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、入居者の性格や過去の生活歴を把握し活発に話し掛けている。入居者と同じ目線で対話することを心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に詳細な基本情報シートを作成しており、入居後も後から得た情報を細かく蓄積している。日常の中で本人の情報を得たり、意向を聞くような場面作りを行なっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を計画書の1面に記入している。計画作成は医療関係者の情報を参考にユニット全体で意見交換を行ない、医師や看護師の意見も踏まえて介護計画を作成している。家族には介護計画作成後、同意のサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに介護計画を見直し作成している。期間内でも状態が変化した場合は、必要に応じて計画を作成し直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1F多目的ホールでレクリエーションをして、隣接する老人ホームの方と交流を図っている。併設するクリニックで様々な医療処置を受けながら、ホームでの生活が継続できるように支援している。自立歩行できない入居者も、車椅子対応車を利用して積極的に外出支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理や医療処置（インシュリン注射・ストマ・バルーンカテーテル・胃ろう・在宅酸素など）は併設クリニックの医師・看護師により24時間管理されている。入居前の掛り付け病院への定期受診支援や主治医との連携も図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化で入院中の方が、退院後当ホームに入居し、病院への入退院を繰り返すケースがほとんどで、本人・家族の意向を聞き、医師・看護師・介護スタッフと話し合い方針を決め支援している。緊急時も頻繁にあるため、近隣の総合病院との連携を図り、救急搬送の態勢も整えられている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護スタッフは、入居者の目線に立ち、心配り・気配りに配慮して支援するよう心掛けている。スタッフは入社時に秘密保持の誓約書を提出している。個人情報には書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な1日のリズムはあるが、入居者それぞれの体調やペースを大切に見守りながら支援している。趣味活動・買物・散歩などの希望にも沿えるよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたいものを献立に取り入れて、満足してもらえることを大切に支援してる。食事作り・後片付けは、家事の好きな入居者やスタッフで行ない、食事は入居者とスタッフが同じテーブルで楽しく会話しながら、入居者それぞれの状態に合わせて支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴可能な入居者には、フロアの浴室や1F多目的ホールの大きな浴室で、週2回程、楽しく入浴できるよう支援している。医師の指示で入浴不可能な入居者には、毎日清拭をして衛生面の配慮がされている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1F多目的ホールで、隣接の老人ホームの方と趣味の囲碁をしたり、ボランティアを招き、お琴の演奏会・和太鼓の演奏会・手品を披露してもらうなどの楽しみごと・気晴らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	医師から外出許可の出た入居者は、臥床傾向の人・バルーンカテーテルを付けている人・酸素ボンベを持っている人も、おしゃれをして楽しめるよう外出支援している。家族の方も現地で合流している。ファクトリー(月1回)・プリンスホテルでの食事会・喫茶店でのお茶会・デパート・ジャスコのほか、日常的に散歩をして気分転換を図っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・スタッフは鍵をかけることの弊害を十分理解しているが、ホームの立地場所が、交通量や人通りが多く無用心との入居者・家族の意見があり、玄関の施錠をしている。玄関に張り紙をし、外出希望者には開錠し、見守り支援している。		

札幌市 グループホーム ソレイユ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して、年2回の消防訓練・設備点検を実施している。入居者との避難訓練は、実施に向けて消防署と相談中であり、できることから段階を踏んでステップアップしていけるよう取り組んでいる。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合わせて、刻み食・とろみ食・主食制限に対応し、毎食ごとの主食・副食の摂取量を記載している。併設クリニックの看護師が入居者の摂取状況を観察し、状態変化の早期発見の支援をしている。水分摂取量と排泄量を記載し、一目でバランスがわかるよう管理され、併設クリニックへ報告している。食事療法が必要な場合も併設クリニックで支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の家具は少なめである。車椅子やストレッチャーの移動の支障になるため、調度品などは置けないが、壁にレクリエーションの作品やお誕生会の写真を飾り、楽しい空間を作る工夫をしている。フロアの片隅に椅子を置き、気の合う同志や一人でくつろげる空間を作り工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者のなじみの調度品を置き、本人と家族で配置を考え、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。